



野田 寿美子 教授

## 野田寿美子教授のひとと業績

有 川 秀 之 埼玉大学身体文化講座

野田寿美子教授は、平成30年（2018年）3月で定年退職となり、昭和57年（1982年）から埼玉大学教養部、教育学部在任35年半を終えられる。私は、野田先生と教養部から一緒に教育学部へ配置換えとなり、埼玉大学での全学教養教育としての体育・スポーツ、教員養成としての保健体育の大切さを柱に、講座の一員として一番長くご指導いただいた。ここに先生のご退職を記念し、教育と研究の成果を振り返りながら、ご功績に敬意を表したい。

### 1. 奈良女子大学から広島大学へ

野田教授は、奈良女子大学入学当初、高校の国語教員希望ということで、体育学への関心は全くなかったようです。しかし、大学2年になったとき転機が訪れ、先輩の誘いで入部した『創作舞踊部』での創作ダンスと出会いから体育への道が開かれました。幼いころにバレエと日本舞踊は習われたが、創作ダンスは学校の授業で経験しただけ、舞台すら見たこともなかったそうです。そこで、当時、奈良で活躍していた『神沢和夫創作舞踊研究所』の門をたたき、さらに、その師である邦正美氏が主催する『日本教育舞踊研究所』の27期研究生となりました。全国から集まる研究生たちと毎夏、長野県野沢温泉村で創作ダンスの理論と実技について研修を深められたようです。

当時、『創作舞踊部』の顧問を引き受けていただいていた土谷澄先生と平井タカネ先生は、運動生理学と運動心理学分野における女性研究者の草分け的存在でした。特に土谷先生は、ストイックな生き様をしておられ、野田先生にとって研究者という進路は考えられなかったようです。しかし、大学4年になったとき、体育学教室の念願であった大学院が設置審を通り、進学への道が示され、1年上の先輩と同級生と一緒に受験し、3人とも第1期生として入学したそうです。

野田先生は、「体育学自体が新しい学問領域だったので、基礎的な研究が急務の時期でした。実験が得意ではなかったので、文献調査をする体育史の竹田清彦先生の研究室に所属しました。体育史も通史が整ってきた段階で、これから、個別のテーマについての研究がなされる時期でした。教材史の通史としては、戦後の体育科教材として主要領域となった体操・スポーツ・ダンスのうち、スポーツとダンスは明治期に、『遊戯』として低学年児童や女子生徒の教材として導入されたものであったと記されていましたが、その詳細については解明されていませんでした。そこで当時の文献を収集することから始めました。現在のように国会図書館の蔵書が全国どこからでも閲覧できるような時代でなかったので、実物を閲覧するには朝早く国会図書館に並んで、申込書を書き、1日に数冊分しかコピーできませんでした。修論では300冊の遊戯書をもとに『遊戯』がスポーツ系教材とダンス系教材へと変遷する過程を明らかにしました。」と振り返られています。

さらに、「資料収集は性に合っていたので、もう少し研究を続けたいと思い、他大学の博士課程を受験しましたが、力不足で落ちてしまいました。再受験のための準備を始めようと決意したすぐ後（1978年の正月明け）に、広島大学総合科学部の体育講座で女性の助手を募集しているという

情報を指導教官からいただきました。時期も遅く応募者が少なかったのではないのでしょうか。面接の後、採用の通知をいただき驚きました。」と、思ってもみないところから研究者として歩み始められたことを話されております。

そして、「まだ、社会に出る覚悟ができておらず、一人の知り合いもない土地でしたが、スタッフの皆さんに暖かく迎えていただき楽しい毎日でした。教養教育のスポーツ実技の授業助手として、週5コマ程度授業を受け持ちましたが、それ以外の時間は、鶴岡栄一先生の御指導のもとで勉強させてもらいました。また、この時代にベテランの先生方が担当される卓球やソフトボール、スケート等の授業を受講させてもらったのは、後々の財産となりましたし、経済的に自立できたことはもっと有り難いことでした。」と当時を振り返られております。

助手3年の任期が終わりに近づき、すでにご結婚をされていて、いよいよ本格的な就活をされたようです。東京近辺のミッション系の私立大学20校ほどに履歴書と母教会の牧師先生が書いてくれた推薦状を送ったりされたようですが、良い結果は得られなかったようです。そして、最後のチャンスと思って応募された埼玉大学教養部は、助手4年目の4月に最終面接をなされたようです。

## 2. 埼玉大学での35年半

埼玉大学教養部への赴任日は1982年8月1日。階段教室で教授会をしていた広島大とは違い、埼玉大の教養部教授会はアットホームだったそうです。特に女性教員は、物理の山崎先生と英語の宇田先生（平成29年3月教育学部退職）のお二人しかおられなかったのも、よく、お茶に誘っていただいたということです。宇田先生は教養部主催（全学1年生対象）のスキー教室にお子さんを連れて参加してくださり、家族ぐるみのお付き合いだったようです。

パンキョウ（般教）といわれていたスポーツ実技では、エアロビクスやヨガ、ダンス等の実技種目を新たに開設し、競い合わない生涯スポーツとして継続できるように指導されました。当時は、1年生と2年生の時に通年でそれぞれ1単位ずつ『体育』が全学生に必修で、前半に実技、後半の冬の時期に体育理論の講義を行っており、1年次にはスポーツの歴史を、2年次には、すでに社会問題となっていた生活習慣病とその予防対策を中心に講義されました。学生から「今日の講義を親にも話してあげます」といわれることがあったそうで、さらに準備に力が入りましたと話されております。教養部では、教養教育のプログラムと責任体制が明確であり、教師間の情報交換も密になされていきました。しかし、現在では、教育学部以外の学生はスポーツ実技が選択となり、年々、受講生が減少している状況です。学生の心と体の健康管理は大丈夫であろうか、と野田先生はいつも危惧されております。

野田先生が教養部に在職され、10年が過ぎた頃、大学改革の波は埼玉大にもおよび、1995年に教養部は改組となりました。教養部の多くの分野の先生方は一人、二人と各学部に分かれて移籍されたのに対し、体育講座では、6名全員揃って教育学部に移れたことは心強く、当時から全学の関係者や教育学部の対応に感謝されておりました。

しかし、すぐに自分の居場所ができたわけではなく、教育学部でご自身がなすべきことは何なのか、迷った時期と語られています。そのようななか、初めてのゼミ生を迎えて、卒論をご指導をすることで、教養部ではできなかった学生を育てるという目標が見えてきたと語られています。様々な問題を抱える学生と出会い、その思いを受け止め、中途退学のゼミ生を出さないことをモットー

にされ、卒業まで導くという経験は、先生ご自身を育ててくれたと感謝されています。

教育学部の文化にも慣れてきた2005年3月に、最愛のご主人を心不全で急に亡くされ、気丈に葬儀まで執り行われていたことを私は記憶しておりますが、だいぶ経った後、その内心は、教養部時代からの同僚、そしてゼミ生たちのおかげで、埼玉大学で働き続ける勇気がわいてきたとお話しされていました。

2008年、ようやく涙が乾いた頃に、渋谷学部長から附属幼稚園長への要請を受けられました。思いもよらないことで、お断りされたそうですが、当然のように説得され、お引き受けされることとなりました。先生曰く、幸いなことに、子供たちの明るい声が響く園庭は思っていた以上に魅力的な世界で、登園するのが楽しみで、園児たちから生きるパワーをもらい、うつむいていた頭を上げ、未来を信じて生きる決意をされたと振り返られています。

また、日々、園児の無事を祈り、その発達過程をつぶさに観察し、保護者とともに喜び、悲しむ体験をさせていただき、教育の現場を体験して、改めて、教育と教員養成の重要性を実感できたと言われています。

さらに、附属幼稚園長就任3年目、最後の卒園式は、あの大地震と津波の4日後の3月15日に執り行い、保護者の中には親族の安否がわからない方もいて、式の間中、すすり泣きがちがとぎれませんでしたと振り返られています。そして、子供たちには、命の尊さと夢を持ちつづけることを、保護者の方には、悲しみと不安が日本中を覆っている中、今日卒園する35名は日本の希望であることを、最後のメッセージとして送ったことを語られました。

### 3. 野田先生の今後

先生の大学における教育・研究生活は、助手時代を含めると40年間になります。これまで記述してきたようなことを振り返ると、創作ダンスの実践から始まり、遊戯、ダンス、スポーツ教材に関する歴史的研究、そして幼児教育の現場へと、図らずも導かれてきた道が浮かび上がるとおっしゃられます。また、この道が途切れなかったことは、ひとえに良き先達、同僚、学生たちのおかげに他ならないと感謝の気持ちを語られています。

そして、今後は、これまで経験されてきたことを社会に還元できるよう、「子育て支援」の活動に関わっていきたいと願われ、次の言葉を残されました。

『子どもたちこそ、私たちの、日本の未来なのですから……』

## 略 歴

氏 名 野 田 寿美子  
生年月日 1952年5月9日  
専攻分野 体育史, 幼児体育  
担当授業科目 身体・スポーツ文化論入門, (基盤科目)  
体育史, 初等体育科指導法, 保健体育科実践研究B (学部)  
保健体育科教育学特論, 体育学特論, 体育学演習 (大学院) 他  
現住所

### (1) 学 歴

1972年4月 奈良女子大学文学部教育学科体育学専攻入学  
1976年3月 同上 卒業  
1976年4月 奈良女子大学大学院文学研究科修士課程体育学専攻入学  
1978年3月 同上 修了 (文学修士)

### (2) 職 歴

1976年4月 四条畷学園女子短期大学非常勤講師 (1978年3月まで)  
1978年4月 広島大学助手総合科学部 (1982年7月まで)  
1982年8月 埼玉大学講師教養部 (1983年9月まで)  
1983年10月 埼玉大学助教授教養部 (1995年3月まで)  
1989年4月 長期在外研究員 (ドイツ連邦共和国, ヴィーレフェルト大学1990年3月まで)  
1995年4月 埼玉大学助教授教育学部 (1996年3月まで)  
1996年4月 埼玉大学大学院教育学研究科担当 (現在に至る)  
2002年4月 埼玉大学教授教育学部 (現在に至る)  
2008年4月 埼玉大学教育学部附属幼稚園長 (2011年3月まで併任)  
2013年4月 放送大学 (埼玉学習センター) 面接授業非常勤講師「保健体育」担当 (現在に至る)

### (3) 学会等所属団体

日本教育舞踊研究所 (1973年～1993年まで)  
日本保育学会 (1977年～1990年まで)  
日本体育学会・体育史専門分科会 (1978年～現在に至る)  
スポーツ史学会 (1987年～2010年まで)  
舞踊学会 (1980年～現在に至る)  
日本幼少児健康学会 (1988年～現在に至る)

## (4) 業績

## (a) 研究的業績

## 〔編著書〕

1. 1982年10月 『指あそび—子どもの豊かな発達のために—』 佐々木出版 (共著) 1-140頁.
2. 1988年11月 「理論編 舞踊について」, 「実践編 題材と具体的な指導例」 『子どもの表現力を高める舞踊』 明治図書 (共著) 2-5頁, 85-101頁.
3. 1990年3月 『スポーツ・体育ものがたり ダンス』 第11巻, 岩崎書店 (単著) 1-80頁.
4. 1992年3月 「理論編 幼児期の運動遊びと親の役割」 『親と子のふれあい体操』 明研図書 (共著) 79-91頁.

## 〔論文〕

1. 1976年9月 「幼児の表現活動について—身体表現を中心に—」 『四条啜学園女子短期大学研究論集』 第11号 (共著), 63-77頁.
2. 1977年9月 「幼児の表現活動について—創造性との関係を中心に—」 『四条啜学園女子短期大学研究論集』 第12号 (共著), 50-61頁.
3. 1978年3月 「明治期におけるダンス系教材導入過程の研究」 (修士論文)
4. 1979年5月 「明治期の『遊戯書』目録」 『広島体育学研究』 広島体育学会, 第5号 (単著), 57-64頁.
5. 1980年3月 「明治期の『遊戯書』について」 『広島体育学研究』 広島体育学会, 第6号 (共著), 1-17頁.
6. 1982年3月 「大正・昭和期の『遊戯書』, 『ダンス書』目録」 『広島体育学研究』 広島体育学会, 第8号 (共著), 47-60頁.
7. 1983年11月 「昭和57年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第16報)」 『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』 第18巻 (共著) 1-9頁.
8. 1984年3月 「明治期の唱歌遊戯の特質」 『埼玉大学紀要教養部 (総合編)』 第2巻 (単著), 113-124頁.
9. 1984年11月 「昭和58年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第17報)」 『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』 第19巻 (共著), 1-9頁.
10. 1985年6月 「メリー・ウィグマン『鳥たちのパレード』 (翻訳)」 『教育舞踊研究』 日本教育舞踊研究所, 第39号 (単著), 3-8頁.
11. 1985年11月 「昭和59年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第18報)」 『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』 第20巻 (共著), 1-10頁.
12. 1986年3月 「昭和60年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第19報)」 『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』 第21巻 (共著), 1-9頁.
13. 1987年3月 「スポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力—10年間の推移— (第20報)」 『埼玉大学紀要教養部 (総合編)』 第6巻 (共著), 83-106頁.
14. 1988年3月 「乳幼児期の身体活動」 『乳幼児期の教育と文化』 (埼玉大学教育学部幼児教育研究室), (単著) 52-57頁.
15. 1988年3月 「昭和61年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第21報)」 『埼玉大学紀要教養部 (総合編)』 第7巻 (共著), 35-43頁.

16. 1989年3月 「昭和62年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第22報)」『埼玉大学紀要教養部 (総合篇)』第8巻 (共著), 95-104頁.
17. 1990年3月 「昭和63年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第23報)」『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』第23巻 (共著) 1-8頁.
18. 1991年3月 「ドイツ連邦共和国のスポーツ学習指導要領における体操・ダンス—Nordrhein-Westfalen州の場合—」『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』第24巻 (単著), 57-76頁.
19. 1991年3月 「平成元年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第24報)」『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』第24巻 (共著), 85-92頁.
20. 1992年3月 「平成2年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第25報)」『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』第25巻 (共著), 13-20頁.
21. 1992年3月 「Nordrhein-Westfalen州の2つの幼稚園における『遊び』の特質」『幼少児健康教育研究』日本幼少児健康教育学会 (単著) 第2巻第1号, 20-26頁.
22. 1993年3月 「平成3年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第26報)」『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』第26巻 (共著), 7-14頁.
23. 1994年3月 「平成4年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第27報)」『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』第27巻 (共著) 1-8頁.
24. 1995年3月 「平成5年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第28報)」『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』第28巻 (共著) 39-47頁.
25. 1996年3月 「平成6年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第29報)」『埼玉大学紀要教養部 (体育学篇)』第29巻 (共著) 1-10頁.
26. 1997年3月 「明治期における『遊戯』の名辞に関する歴史的考察」『埼玉大学紀要教育学部 (教育科学Ⅲ)』第46巻第1号 (単著), 109-117頁.
27. 1997年3月 「平成7年度のスポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力について (第30報)」『埼玉大学紀要教育学部 (教育科学Ⅲ)』第46巻第1号 (共著), 39-47頁.
28. 1999年3月 「体操およびダンス領域における『知覚訓練』の実際—ノルトライン・ヴェストファーレン州の学習指導要領を手引きとして—」『埼玉大学紀要教育学部 (教育科学Ⅱ)』第46, 第1号 (単著), 109-117頁.
29. 2000年3月 「雑誌『運動界』にみる明治期のスポーツ観」『埼玉大学紀要教育学部 (人文・教育科学Ⅱ)』第49巻, 第1号 (単著), 61-70頁.
30. 2001年10月 「佐々木賢太郎の体育授業実践の今日的意義—『体育の子』の実践例を中心に—」『埼玉大学紀要教育学部 (人文・教育科学Ⅱ)』第50巻第1号 (単著), 55-66頁.
31. 2002年3月 「スポーツテストを通してみた埼玉大学学生の体力・運動能力の動向—30年間 (昭和41年～平成7年)の推移について」『埼玉大学紀要教育学部 (教育科学Ⅱ)』第51巻第1号 (共著), 25-41頁.
32. 2004年3月 「阿波踊りに関する伝統性と現代性」『埼玉大学紀要教育学部 (教育科学 (Ⅱ))』第53巻第1号 (単著), 57-67頁.
33. 2005年3月 「大学生の運動・スポーツとの関わり度に影響を及ぼす諸要因について」『埼玉大学紀要教育学部 (教育科学Ⅱ)』第54巻第1号 (共著), 227-248頁.

34. 2007年3月 「学校における舞踊教育と生活文化としての舞踊の変遷—明治・大正期を概観して—」『埼玉大学紀要教育学部（教育科学Ⅱ）』第56巻第1号（単著），175-183頁.
35. 2009年3月 「保育内容の再考—領域『健康』のねらいを視点として—」『埼玉大学教育学部附属幼稚園研究紀要』（共著），1-83頁.
36. 2009年3月 「教育内容の改善—幼稚園教育要領の改定を踏まえて—」『全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会紀要』（共著），1-3頁.
37. 2009年9月 「幼児期の身体表現活動」『幼稚園じほう』全国国公立幼稚園長会，1-2頁.
38. 2010年3月 「近代スポーツ導入期の日本の女子スポーツに関する史的研究—女子バスケットボールの受容過程に着目して—」『埼玉大学紀要教育学部（教育科学Ⅱ）』第59巻第1号（共著），31-39頁.
39. 2010年3月 「保育内容の再考—領域『表現』のねらいを視点として—」『埼玉大学教育学部附属幼稚園紀要』（共著），1-64頁.
40. 2010年3月 『協同して遊ぶことに関する指導の在り方』全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会編：文科省委託事業刊行物，（共著）1-124頁.
41. 2011年3月 「附属幼稚園における子育ての支援」『全国国立大学附属幼稚園部会紀要』（共著），1-10頁.
42. 2011年3月 「幼稚園の保健安全教育について」『埼玉大学教育学部附属幼稚園紀要』（共著），1-120頁.
43. 2012年3月 「朝の身体活動プログラムを実践しているS幼稚園の高次神経活動の特徴—F幼稚園との比較から—」『幼少児健康教育研究』第18巻，日本幼少児健康教育学会（共著），28-36頁.
44. 2014年3月 「幼児の身体表現の育ちに関する事例研究—コミュニケーション力を手掛かりとして—」『埼玉大学紀要教育学部』第63巻（単著），305-314頁.
45. 2017年9月 「初等中等体育の指導における実践的課題」『埼玉大学紀要学教育学部』第66巻(2)（共著），379-402頁.

## 〔研究調査報告書〕

1. 1980年 「明治期における遊戯教材の変遷とその背景について」文部科学省科学研究助成事業研究成果報告書（奨励研究A）
2. 1982年 「大正・昭和前期の遊戯教材の変遷とその背景について」文部科学省科学研究助成事業研究成果報告書（奨励研究A）
3. 2006年 「高度経済成長期における舞踊・ダンス教育の変容」埼玉大学プロジェクト研究報告書

## 〔口頭発表〕

1. 1977年5月 「幼児の表現活動について—身体表現を中心に—」『第30回日本保育学会大会研究論文集』（共著）130頁.
2. 1977年5月 「幼児の表現活動について—人間関係を中心に—」『第30回日本保育学会大会研究論文集』（共著）128頁.



3. 1978年5月 「幼児の表現活動について—創造性との関係を中心に—」『第31回日本保育学会大会研究論文集』（共著）192-193頁.
4. 1978年5月 「幼児の表現活動について—運動能力との関係を中心に—」『第31回日本保育学会大会研究論文集』（共著）190-191頁.
5. 1980年10月 「大正期における『遊戯書』」『日本体育学会第32回大会号』（共著）182頁.
6. 1981年9月 「唱歌・行進遊戯の系譜」『日本体育学会第33回大会号』（共著）172頁.
7. 1988年3月 「幼児期の身体表現の特徴」『日本幼少児健康教育学会第6回大会発表抄録集』（単著）35頁.
8. 1992年3月 「Nordrhein-Westfalen州の2つの幼稚園における『遊び』の特質」『日本幼少児健康教育学会第10回大会発表抄録集』（単著）22頁.
9. 2011年3月 「S幼稚園における幼児の高次神経活動の特徴」『日本幼少児健康教育学会第29回大会発表抄録集』（共著）86-87頁.

〔創作・演技〕

1. 1978年11月 日本教育舞踊広島研究室創作舞踊公演 広島青少年センター
2. 1979年11月 日本教育舞踊広島研究室創作舞踊公演 福山市民会館
3. 1980年11月 日本教育舞踊広島研究室創作舞踊公演 福山市民会館
4. 1982年11月 日本教育舞踊埼玉研究室創作舞踊公演 浦和市文化センター
5. 1985年3月 日本教育舞踊埼玉研究室創作舞踊公演 浦和市文化センター
6. 1986年3月 日本教育舞踊埼玉研究室創作舞踊公演 浦和市文化センター
7. 1987年3月 日本教育舞踊埼玉研究室創作舞踊公演 浦和市文化センター
8. 1988年3月 日本教育舞踊埼玉研究室創作舞踊公演 浦和市文化センター
9. 1989年3月 日本教育舞踊埼玉研究室創作舞踊公演 浦和市文化センター
10. 1990年5月 日本教育舞踊埼玉研究室創作舞踊公演 浦和市文化センター

(b) その他の業績

1. 2005年3月 『さいたま市スポーツ振興計画』（共著）さいたま市教育委員会
2. 2010年3月 『心豊かなさいたま市の子どもを育むために』（共著）さいたま市教育委員会

(5) 大学における課外活動（指導）

新体操部部长（1996年～現在に至る）

相撲部部长（1999年～現在に至る）

- 1999年11月 第78回東日本学生相撲選手権大会 団体Cクラス優勝  
 2012年11月 第90回全国学生相撲選手権大会 団体Cクラス優勝  
 2013年10月 第31回全国国公立大学相撲大会 団体優勝  
 2014年10月 第32回全国国公立大学相撲大会 団体準優勝

(6) 社会的活動

埼玉県家庭教育振興協議会委員・理事（1998年～現在に至る）

東日本学生相撲連盟参与（1999年～現在に至る）

埼玉県生涯学習審議会委員（2001年～2005年まで）  
 さいたま市スポーツ振興協議会委員（2003年～2013年まで）  
 県立常盤高等学校学校評議員（2005年～現在に至る）  
 さいたま市道徳教育推進委員会委員（2008年～2011年まで）  
 全国国公立幼稚園長会副会長（2008年～2009年まで）  
 全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会会長（2009年～2010年まで）  
 (株) コマームとの協同研究：「乳幼児・児童の発達を促す『運動遊び』のプログラム開発」（2015年～現在に至る）

#### 子育て支援等に関する講習会講師

1. 2004年7月 「親子で遊ぼう—子育ては親育ち—」 埼玉県家庭教育アドバイザー講習会，行田市地域文化センター
2. 2005年10月 「子供の発育・発達段階と遊び」 埼玉県家庭教育アドバイザー講習会，さいたま文学館（桶川市）
3. 2006年7月 「親と子のふれあい体操」 シャローム子育てセミナー 日高市文化体育館
4. 2006年9月 「少子化社会の子育て支援を考える」 埼玉県家庭教育アドバイザー講習会，日高市文化体育館
5. 2008年6月 「小学校児童の心と体を健やかに育む家庭教育」 所沢市教育委員会主催所沢市立荒幡小学校
6. 2012年10月 「子供の身体表現を豊かに育てる」 埼玉県保育士会主催 保育士研修会，さいたま市立大宮小学校
7. 2017年4月 「心と体の発達をうながす『スキンシップ遊び』」（株）コマーム主催マタernalサポート講座，さいたま共済会館

(2017年9月27日提出)

(2017年11月18日受理)